



こんにちは

日本共産党

市会議員

西野さち子です

くらしの目線で市政を変える



住民のくらしを守る京都市政をこいつしよに!!

京都市会
代表質問

市民生活まもれと市長を追及

西野さち子市議は、5月21日の本会議で日本共産党市会議員団を代表して市長に質問しました。

西野市議は「憲法解釈の変更だけで日本が攻められてもいけないのに戦争に参加する国に変えようとする集団的自衛権の行使容認や教育委員会制度の改悪で、教育の政治介入は絶対に許せない」と訴えました。

また、「消費税増税は商店街の営業に重大な影響を及ぼしている。消費税増税が市民に与える影響を調査すべき」「原発ゼロの立場に立って国のエネルギー基本計画の撤回を求めろべき」「市営住宅の風呂桶やシャワーの設置は京都市の責任ですべき。また、家賃値上げは許せない」「ごみ袋代収入の有料化財源を8億5千万円も使って南部クリーンセンターの学習施設建設はやめるべき。4億円の展望台は必要ない」等の質問をしました。



代表質問で市長を追及する西野市議

市長は消費税増税が市民生活にどんな影響を与えているのかを調査しようともしていませんでした。他の質問についても冷たい答弁ばかりでした。西野市議は「引き続き委員会で質問し、くらしを守るために頑張ります」と決意を語っています。

4億円の展望台 こんな必要??

京都市は横大路にある南部クリーンセンター第二工場の建て替えにあたって、8億5千万円の予算で学習施設を併設する計画です。学習施設予算はごみ袋代の収入（有料化財源）です。

すでに北部クリーンセンターには、7億円もか

けた学習施設があります。なぜ南部にまで豪華な学習施設が必要なのでしょう？

更にその学習施設には、4億円の展望台をつくるというのですから驚きです。

実際に京都市が参考にしたという東埼玉の越谷クリーンセンター展望台を視察してみて、展望台は必要ないと確信しました。有料化財源の使い方をいま、考え直す必要があるということも実感しました。袋代の値下げにこそ使わなければならないでしょうか。



京都市が参考にしたという越谷クリーンセンターの展望台。

高すぎる ごみ袋代 力あわせて値下げさせよう

消費税増税や年金改悪をはじめとして市民の生活が大変な時に、ごみ袋代が高すぎると値下げに踏み切った都市が出てきています。山口県下関市は当初京都市と同じ1リットル1円でしたが、5年前から1リットルを0.6円に値下げ。広島県府中市はごみ袋の販売価格に含まれるごみ処理協力金を半額にされました。ごみ量は目標の5%を大きく上回る20%の減量となっており、心配されたリバウンドもなく、資源化の拡大で同水準を維持しているということです。

京都市でも市民の努力でごみは減っています。京都市の有料化財源は今年度予算で15億4710万円もあり、ごみ袋代収入の7割以上が環境ファンドに積み立てられています。京都市でも高すぎるごみ袋代の値下げは十分に可能です。

